

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 3 月 30 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	川口ゆり

1. 派遣国・場所 (○○国、○○地域)
日本、妙高高原 笹ヶ峰
2. 研究課題名 (○○の調査、および○○での実験)
笹ヶ峰実習 積雪期
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 3 月 22 日 - 26 日
4. 主な受入機関及び受入研究者 (○○大学○○研究所、○○博士/○○動物園、キュレーター、○○氏)
霊長類研究所 松沢哲郎先生、静岡大学 杉山 茂先生、野生動物研究センター 滝澤 玲子先生
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
上記の期間、笹ヶ峰実習 (積雪期) に参加したのでここに報告する。 1 日目：到着、スキー板などの説明および準備 2 日目：周辺散策 (鎮守の森、泉)、イグルーづくり 3 日目：周辺散策、直滑降の練習 4 日目：黒沢までラッセル、焚火 5 日目：帰宅 1 日目は雪上車でヒュッテへ向かった。雪上車でも途中、除雪が必要となり 2 時間ほどかかった。3-4m も積もった雪に圧倒された。スキー板にシール (滑り止め) を張ることなどを習った。もともとはアザラシの毛皮を用いていたことからこのような名前らしい。一方向に対しては抵抗があり滑らないようになっておりシールを張ることで上り坂の雪道でも難なく進むことができる。陳腐な感想だが、最初にアザラシの毛皮のこのような使用法を考えた人は偉大だと感じた。

雪上車での移動
2 日目の散策では、神社の鳥居が雪に埋まって上部が腰の高さにあるのを見た。写真では今まで見たことがあったものの、実際に目の当たりにすると改めて積雪の多さを実感した。スキーを使っての上りは大変だった。しかし、道中にヤドリギの実を口にしたら楽しかった。ヤドリギの実は非常に甘かったが特筆すべきはその粘性だった。かなりジューシーな実の内部が糸を引きうまく呑み込めないほどで、ほかの木に寄生するためにはここまでしなければならないのかと思った。この日のハイライトはイグルーづくりである。私は雪の少ない関西出身のためイグルーはもちろん、かまくらすら今まで作ることがなかったので興奮した。イグルーをつくるにはまず 160 cm 四方の雪を踏み固める。踏み固めて固くなった雪をのこぎりで切り出して雪のブロックを作る。そのブロックを周りに積み立てていく。これを繰り返すことでイグルーが完成する。作成には時間も体力も要したが、それだけでなく崩れないよ

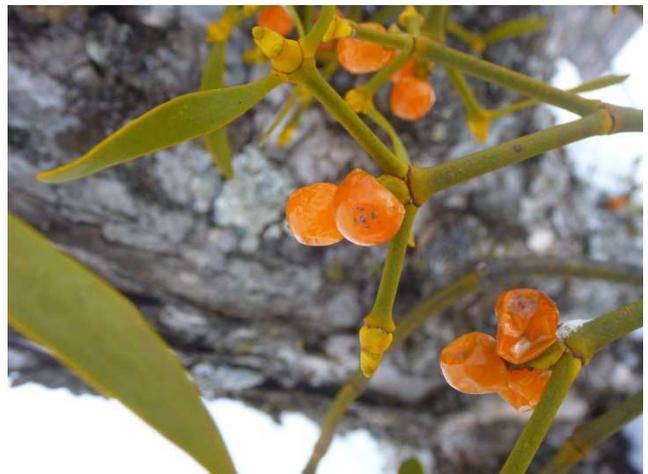
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

うに「建築物」としてきちんと計算して作る必要があった。イグルーの中はやはり風がさえぎられてあまり寒さを感じなかった。イグルーは作ったあとに雪が降り積もり、重さでつぶれてしまうのではと心配したが、雪の重さがイグルーを強固にする方向に働くらしくイグルーの上にもびくともびくともしなかった。



鳥居が埋まる積雪量



粘着質のヤドリギの実



イグルーづくり



完成したイグルー

3日目の周辺散策は前日よりも距離が長く、慣れないスキーでの登り道が大変だった。この日の昼からは吹雪はじめ天候が悪くなると一気に体力を消耗すると感じた。

4日目のラッセルも登りが大変だった。特に自分が先頭の時は自分で深い雪をかき分けなければならぬのでうまく歩かないとスキーの先端に踏み出せないほどの雪が乗ることとなり、少し歩くだけで疲れてしまう。私はこれがうまくできなかったのが自分が先頭の時はかなりペースを乱したのではと申し訳なく思う。しかし、足跡のない新雪をぎざぎざと踏み分けていくのは気持ちよかった。また、夏季は藪こぎしながら進むしかなかった場所が雪に覆われてすっきりとしていたのは快適でもあった。この日は非常に天気が良く、風もなくて暖かだった。途中の休憩では甘納豆をいただき雪と一緒に食べた。そうすると金時氷のようになって非常に美味であり、力が出た。下りは滑って降りた。スキーは人生で3回目で、ゲレンデでしか滑ったことがなかったがおおむね同じような感覚で滑ることができ楽しんだ。下りはやはり一瞬で終わってしまい、すぐにヒュッテについてしまった。戻ってからは焚火をした。雪を鍋に入れてラーメンを調理した。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



晴天に映える雪山



しばし休憩



雪を使っのラーメン調理



焚火

5日目に帰る間際には3度ヒュッテの近くにキツネが現れた。これまで羅臼での実習時など、野生のキツネを見るチャンスは何度かあったものの、私はその都度機会を逃していたので今回みる事ができてとても満足だった。実習期間中、ウサギなどの足跡を探すのも楽しかった。



生ごみを物色しに来たキツネ



ウサギと見られる足跡

今回すべて楽しく終わったが、帰宅した翌日、栃木県でスキーを行う高校生たちが雪崩に巻き込まれ死者が出るという痛ましい事故があった。ラッセル中の事故ということだったが、自分もラッセルを経験した直後のことだったのでショックを受けた。古い雪の層につもった新雪の層が雪崩れる表層雪崩が原因ではとの見方もある。実習中のイグルーづくりのために雪を切り出す際に、ふかふかした新雪の数十センチ下に素人目にもわかる全く異なる雪の層があるのをはっきり見た。今回、登山経験豊富な教員陣のおかげで安全に実習を終えることができたものの、楽しただけでなく雪山の危険性も実感し、そういう意味でも今回の実習から大事なことを学んだと感じた。

6. その他 (特記事項など)

松沢先生、杉山先生、滝澤先生のおかげで実習を無事に終えることができました。ありがとうございました。また、今回の実習はPWSプログラムの支援を受けておこないました。厚くお礼申し上げます。